

製品名: CAC1G ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07814**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	261kDa

抗原情報

遺伝子名	CACNA1G
別名	KIAA1123
遺伝子 ID	8913.0
SwissProt ID	O43497
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 360~440

背景

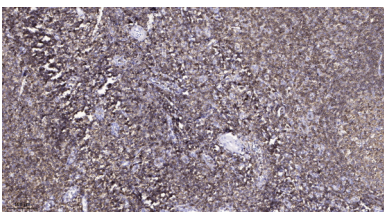
カルシウム電位依存性チャネルサブユニット $\alpha 1G$ (CACNA1G) ホモサピエンス 電位感受性カルシウムチャネルは、興奮性細胞へのカルシウムイオンの流入を媒介し、筋収縮、ホルモンまたは神経伝達物質の放出、遺伝子発現、細胞運動、細胞分裂、細胞死などの

さまざまなカルシウム依存性プロセスにも関与しています。この遺伝子は、T型の低電圧活性化カルシウムチャンネルをコードしています。T型チャンネルは、不活性化が速いため一過性で、かつコンダクタンスが小さいため微小な電流を生成します。T型チャンネルは、ペースメーカー活動、低閾値カルシウムスパイク、神経振動および共鳴、反跳バースト発火に関与していると考えられています。この遺伝子については、異なるアイソフォームをコードする多くの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2011年9月]、代替製品：追加のアイソフォームが存在すると思われる、ドメイン：4つの内部リピートにはそれぞれ、5つの疎水性膜貫通セグメント（S1、S2、S3、S5、S6）と1つの正に帯電した膜貫通セグメント（S4）が含まれている。S4セグメントはおそらく電圧センサーを表し、3つおきの位置に一連の正に帯電したアミノ酸があることが特徴です。ドメイン：リピートIIIとIVのリンカー領域は、おそらくチャンネルの不活性化に役割を果たしている。C末端部分は、タンパク質の膜への固定に関与している可能性があり、これはタンパク質の横方向拡散を妨害/制限することによって行われている。機能：電圧感受性カルシウムチャンネル（VSCC）は、興奮性細胞へのカルシウムイオンの流入を媒介するだけでなく、筋収縮、ホルモンまたは神経伝達物質の放出、遺伝子発現、細胞運動、細胞分裂、細胞死など、さまざまなカルシウム依存性プロセスにも関与している。アイソフォーム α -1GはT型カルシウム電流を生じます。T型カルシウムチャンネルは「低電位活性化（LVA）」グループに属し、ミベフラジルによって強く阻害されます。このタイプのチャンネルの特徴は、極めて負の電位で開口し、電圧依存性に不活性化することです。T型チャンネルは、中枢ニューロンと心臓結節細胞の両方でペースメーカー機能を果たし、分泌細胞と血管平滑筋におけるカルシウムシグナル伝達をサポートします。また、情報処理や細胞増殖プロセスにおいて重要なニューロンの発火パターンの調節にも関与している可能性があります。PTM：細胞内カルシウム濃度の上昇に反応して、T型チャンネルはCaMキナーゼIIによって活性化されます。類似性：カルシウムチャンネル α -1サブユニット（TC 1.A.1.11）ファミリーに属します。組織特異性：脳、特に扁桃、視床下核、小脳、視床で高発現しています。心臓では中等度の発現、胎盤、腎臓、肺では低い発現を示す。結腸、骨髄、そして腫瘍細胞にも、より低いレベルで発現している。胎児脳では高い発現を示すが、心臓、腎臓、肺などの末梢胎児組織でも発現が見られ、発達段階に応じて発現が制御されていることを示唆している。

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;カルシウム;2型糖尿病;

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈した（4°Cで一晩）。2、抗原賦活化にはTris-EDTA、pH9.0を使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した（室温、45分）。